

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士は、「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

また評論家の花田清輝は「真にナショナルなものは、実はインターナショナルである」と喝破しま

したが、まさにしょうゆについて述べているかのようです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に受け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化の紹介にとどまらず、「食の国際交流」と「食育」に少しでも寄与できるよう努めていきたいと思えます。

キッコーマン国際食文化研究センター

キッコーマン
国際食文化研究センター



閲覧コーナー



キッコーマンの故郷—野田の町並みに調和した野田本社



図書コーナー



メディアコーナー



企画展示コーナー

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>

キッコーマン国際食文化研究センター

〒278-8601 千葉県野田市野田250 TEL:04-7123-5215 FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時～午後5時 <休館日>土・日曜日、祝日、年末・年始、ゴールデンウィーク、旧盆

※詳細は当センターへお問い合わせください。

表紙の解説

〔東都名所日本橋真景并魚市全図〕歌川広重画
日本橋は五街道（東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道）の起点で、「お江戸日本橋七ツ立ち」と唄われているように、早朝に旅立つ人や、夕方到着する人で賑やかな江戸の中心地だったことが、右上に富士山と江戸城がセットで描かれていることからわかります。

日本橋の北詰め東側と江戸橋の間の日本橋川北岸には、本船町、本小田原町、長浜町などの魚河岸があり、様々な物資を運ぶ舟が日本橋川を行き交い、一日に壹千両のお金がうごくと言われた魚河岸の喧騒が聞こえてくるようです。

江戸は町ごとに木戸で区切られ、町内の見回りや火の番をする木戸番・自身番が置かれていましたが、絵の右にも梯子が立っている自身番小屋が見えます。（天保の頃の風景）

所蔵：江戸東京博物館
Image：東京都歴史文化財団イメージアーカイブ

